

東京女子医科大学看護学会の設立に際して



東京女子医科大学看護学会理事長

尾 岸 恵三子

東京女子医科大学看護学会誌の創刊にあたり、学会の設立に加わった会員を代表して、ご挨拶を申し上げます。

東京女子医科大学看護学会は、2004年4月に東京女子医科大学大学院看護学研究科博士課程が開設されたのを機に、看護学の発展に主体的に参加する志を持つ発起人会のもと10月に設立総会がとり行われました。さらに、2005年10月には第1回学術集会を無事開催することができました。1998年の看護学部の開学に始まり、2004年の大学院看護学研究科博士課程および認定看護師教育センターの開設、そしてこのわずか6年の間に看護学会を設立するに至ったことは我が大学にとって意義深いものがあります。

東京女子医科大学看護学部の開設から、最高学府の大学院看護学研究科博士課程の開設までの慌ただしい6年間は、吉岡博光理事長および高倉公朋学長、ならびに多くの方々のご支援を頂きながら体制を整えた日々と言えます。これからは、いよいよ内容を創造し充実する時であると考えます。我々には、看護学を学問として成長できるように整える責務もあります。いずれも看護を必要とする人々に最もよい看護が実践できることをめざすものであります。

これらを意識し、東京女子医科大学看護学会は、質の高い看護を可能にする看護実践、単なる研究のための研究ではなく生きた看護のための研究を可能にする探究の場、これらを通して看護学の学問体系を可能にする場として発足するものです。したがって、東京女子医科大学看護学会は、「会員相互の学術的研鑽と交流を図り、看護学の発展をめざすこと」を目的としました。さらに、東京女子医科大学看護学会は、看護研究・看護教育・看護実践に携わる人、本学部学生・本学看護専門学校生、大学院生などの研究発表、看護を支える人・健康・生活に関する領域の人々の参加を可能にし、創造的な看護をめざす学会として成長することが期待されます。

また、この度、第1回学術集会の開催を機に東京女子医科大学看護学会誌創刊号が発刊の運びとなりました。これは、1998年から年に1回東京女子医科大学看護学部紀要が発行されてきたことを受けて発刊されるものです。研究業績が発表される学会が毎年開催され、その業績が学会誌にて発表されるということは、東京女子医科大学看護学会の活動を余すところなく世に問いつつ、新しい看護学を創造する機会に恵まれることとなります。

すでに東京女子医科大学看護学会は、設立総会において寄せられた皆さんの学会への期待、「学会員の参加により創られ、ユニークで楽しく、開かれた自由な交流の場であり、実践と学問の融合の場であってほしい」などの声を反映して、第1回の学術集会のテーマ「期待から参加へ」として引き継がれ、会員により新しい学会へと変革しはじめております。東京女子医科大学看護学会は、本学に止まらず新しいスタイルの看護学会として、日本における看護学の発展を促進することに貢献するものとして発展してほしいと思っております。